イチョウ葉エキスの有効成分

有効成分

フラボノイド配糖体

主な成分は、ケンフェロール、ケルセチンやイソラムネチンのフラボノイドがそれぞれ糖と結合したフラボノイド配糖体です。

非配糖体のフラボノイドとして、二重フラボン、カテキン、プロアントシアニジン等が含まれています。

テルペンラクトン

イチョウ葉エキス特有の成分です。炭素数20のギンコライド（ginkgolideA,B,C,M,J）および炭素数15のビロバライド（bilobalide）があります。

イチョウ葉エキスの薬理作用

薬理作用

①活性酸素除去作用による抗酸化作用
②血小板活性化因子の拮抗作用
・血小板凝集抑制および血栓形成抑制による微小循環改善作用
・気管支収縮阻害作用
・アレルギー症状抑制作用
③プロスタサイクリンと一酸化窒素の産生促進およびカテコールアミンの放出促進
・冠血管や末梢血管の拡張作用
④脳代謝改善作用
⑤記憶障害改善作用　など

イチョウ葉エキスの副作用

副作用

胃腸障害、頭痛、めまい、動悸、便秘、皮膚アレルギー反応、出血傾向等があります。高用量では、落ち着きがなくなる、下痢、吐き気、嘔吐、筋緊張の低下等が起こる可能性があります。特にアレルギー物質のギンコール酸を多量に含むものでは、湿疹、下痢、腹痛などのアレルギー症状が報告されています。

お薬に関する問い合わせがあるとき

くすりなんでもテレホン

092-271-1585

（月～金 9:00～17:30　土 9:00～12:00）

福岡県薬剤師会薬事情報センターでは、一般の方のご質問を電話で受けています。くすりの使用方法や取り扱い方などに関する質問をおよせください。
子どもさんが誤って化粧品など食べ物でないものを、飲んだり食べたりした場合の対処方法についても受け付けます。
実際の診療に関わる内容については、かかりつけの医療機関、主治医にお問い合わせ下さい。

「薬事情報センター」のホームページ

- 知っていますか？クスリの正しい使い方 **読むおクスリ**
- 当センターに寄せられた質疑応答をご紹介 **質疑応答**
- 新薬・報告品目情報 **医薬品情報**
- 消毒薬の使い方をご紹介 **消毒薬一覧**
- くすりに関するご質問にお応えしています **くすりQ&A**
- 副作用等が防止できた事例をご紹介 **相談事例**

コンテンツいっぱいの当ホームページへぜひアクセスしてみてください。

福岡県　薬事情報センター

http://www.fpa.or.jp/johocenter/yakuji-main.html

公益社団法人福岡県薬剤師会 薬事情報センター

FAX 092-281-4104　E-mail f-pic@fpa.or.jp

月～金 9：00～17：30　土 9：00～12：00

Vol.6

健康食品の正しい知識で健康ライフ

上手に使おう健康食品

今回のテーマ

イチョウ葉エキスと医薬品の飲み合わせ

公益社団法人福岡県薬剤師会 薬事情報センター

TEL 092-271-1585

今回のテーマ

イチョウ葉エキス と医薬品の飲み合わせ

イチョウ葉エキスとは

イチョウ（Ginkgo biloba L.）は中国原産の落葉高木で、実の銀杏は食用にされています。イチョウ葉エキス（Ginkgo biloba extract）は、イチョウの緑葉から抽出した化合物の製剤です。

ドイツでは、イチョウ葉エキスの規格品が医薬品として利用されています。一方、日本では医薬品として認可されておらず、健康食品として利用されています。

【成分規格】

イチョウ葉エキスは、産地や収穫時期、エキスの調製法によって、個別成分の含有量が変わり、様々な品質の製品ができる可能性があります。そこで、有効成分のフラボノイド配糖体を22～27%、テルペンラクトンを5～7%含有し、有害成分（アレルギー物質）のギンコール酸残存量は5ppm以下とする成分規格があります。

【はたらき】

規格品については、加齢による記憶障害、耳鳴り、めまいの改善に対して有効性が示唆されていますが、最近の研究ではそれらを支持しないものもあります。

イチョウ葉エキスと 医薬品との飲み合わせは？

医薬品の作用に影響を及ぼすことがあります。

※健康食品は医薬品ではないので、病気の治療を目的に使用しないようにしましょう。

医薬品の作用が増強するもの

医薬品名	医薬品への影響
血液をサラサラにする薬 非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs） （ワルファリン、アスピリン、チクロピジン等） （ジクロフェナク、イブプロフェン、ロキソプロフェン等）	イチョウ葉エキスは抗血栓作用（血小板凝集抑制作用、血液凝固能抑制作用など）を有するので、相互に作用が増強して、出血傾向となる可能性がある。併用は避ける。 **【ワルファリンの報告事例】**[1)] 78歳女性。ワルファリン療法中、２日間、自分で食事ができない状況になった。認知障害が進行し、CTで左頭頂部に出血が認められた。入院治療により、１ヶ月後は自分で食事ができるようになった。２ヶ月前からイチョウ葉エキスを摂取していたことが後でわかった。 **【アスピリンの報告事例】**[2)] 70歳男性。アスピリンを服用中、２日間、右眼に複視を繰り返したので受診。虹彩から前房への出血を認めた。１週間前からイチョウ葉エキスを摂取しており、中止したら出血は止まり、その後３ヶ月間再発はない。
降圧薬	イチョウ葉エキスは血管拡張作用を有するので、降圧作用が増強する可能性がある。[3)]

医薬品の作用が減弱または作用に影響するもの

医薬品名	医薬品への影響
抗てんかん薬 てんかん閾値を低下させる薬 （バルプロ酸ナトリウム、フェニトイン等） （抗精神病薬、抗うつ薬、テオフィリン等）	イチョウ葉エキスはてんかん閾値を低下させ、てんかんを誘発することが報告されている。抗てんかん薬を服用中のてんかん患者の場合、てんかんのコントロールが不良となる可能性がある。また、てんかん閾値を低下させる薬との併用は、てんかんを誘発しやすくなる可能性がある。 **【報告事例】**[4)] 78歳男性。脳血管疾患によるてんかん。バルプロ酸ナトリウムでてんかんのコントロール良好。最後の発作は１年半前。軽度認知障害で、主治医に知らせずにイチョウ葉エキスを摂取したら、２週間後に全身性の間代性発作が起こった。バルプロ酸ナトリウムの量は変えずにイチョウ葉エキスを中止したら、８ヶ月後も発作は起こっていない。 **【報告事例】**[4)] 84歳女性。重度認知症。バルプロ酸ナトリウムで２年間てんかん発作は起こっていない。精神科医が処方したイチョウ葉エキスを併用したら、開始12日後にてんかん発作が起こった。イチョウ葉エキスを中止しても、その後48時間に３回てんかん発作が起こったが、バルプロ酸ナトリウムの量は変えずに継続投与したら、４ヶ月後も発作は起こっていない。

重要！ 摂取に注意が必要な方があります。使用する前には、必ず薬剤師に相談しましょう。

〔文献〕1)Mathews MK Jr:Neurology 50,1933,1998.
2)Rosenblatt M et al.:N Engl J Med.336,1108,1997.
3)ハーブの安全性ガイド, フレグランスジャーナル,2003.
4)Granger AS:Age and Ageing 30(6),523,2001.